



# コロナ禍における韓国理解講座の実施 ～例年とは違う状況下で、韓国をより身近に 感じてもらうために～

島根県環境生活部文化国際課 主任主事 高橋 果歩

## コロナ禍における海外理解講座

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により海外との往来が困難となり、島根県でも国際交流に関する多くの事業が影響を受けました。そうした状況の中でも、海外とのつながりを県民の皆様にも少しでも感じていただけるよう実施した「海外理解講座・韓国コース」の取り組みについてご紹介します。

## 例年とは異なる状況での講座実施

例年の「海外理解講座・韓国コース」では、座学のほか、テコンドー鑑賞・体験、韓服の試着など、体験型の講座もいくつか取り入れており、その中でも毎年1番人気なのが、料理講座です。島根県に在住している韓国人に講師となっただき、受講者と料理を作り、出来上がった料理を食べながら韓国に関する話で盛り上がるとても楽しい時間です。また、講座受講者のうち数名は、現地研修として韓国へ行き、現地の大学生と交流をしたりホームステイをしたりします。

しかし昨年度は、現地研修はもちろん、受講者同士が触れあう体験や料理講座の実施も難しい状況でした。そもそも講座を開催しても良いのか、開催できるとしても感染症対策をどう徹底するかなどクリアすべき多くの課題がありました。さらに大きな不安は、受講者が集まるのかということでした。今まで目玉となっていた料理講座ができないため、どのような講座であれば受講者の方に興味を持ってもらえるのか、島根県で勤務している韓国の国際交流員と話し合いました。そこで思いついたのが、オンラインツアーでした。県民の皆様にも、実際に行くことはできませんが、韓国の今の風景を見て、韓国にいるかのように感じてもらう、少しでも気分が明るくなり希望を持ってもらえたらと思いました。

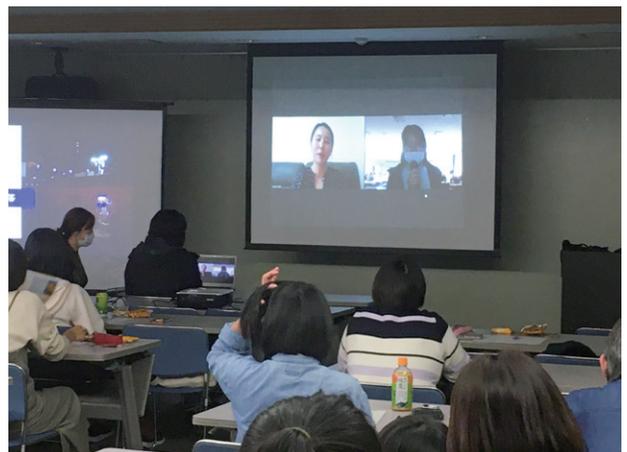
## 韓国と島根県をつなぐ元国際交流員

オンラインで韓国と島根県をつなぐにあたって、韓国の状況を伝えてもらう必要があります。その役目を、昨年の3月に韓国へ帰国した島根県松江市の元国際交流員にお願いしました。

リアルタイムで韓国内を旅している様子をオンラインで中継することも考えましたが、時間の都合などもあり、事前に元国際交流員が観光地を巡って撮った写真や動画を映しながら、説明してもらうという方法になりました。



元国際交流員の話真剣に聞く受講者たち



質問をする受講者とそれに答える元国際交流員

普段の韓国の様子だけでなく、コロナ禍の今の様子をリアルに伝えてもらうため、コロナが流行する前と後の違いや、元国際交流員自身がコロナ禍で帰国した際の経験なども話してもらいました。

受講者は、とても興味深そうに元国際交流員の話聞き、今の韓国の様子について質問していました。アンケートでは、「今の韓国の状況やトレンドを知ることができた」「お互いの顔が見える交流ができて良かった」「韓国と日本のコロナ対策の違いが興味深かった」といった感想がありました。受講者は、コロナが収束し、韓国に行くことができる日をとっても楽しみにされている様子でした。

オンラインツアーのほか、韓国の民画体験やポジャギチュモニ（韓国風巾着）づくりなど、個人ごとに取り組むことができる体験型講座や、韓国映画の上映とその映画に関する国際交流員のトーク交流会といったイベントも実施しました。



民画体験をする受講者

当初は料理講座がなく、受講者が集まるか不安でしたが、想定を大きく上回る方々にご参加いただき、好評のうちに終えることができました。また、普段はリピーターが多いこの講座ですが、今回は初めての方や学生などの若い方が多く参加してくれたこともとても嬉しかったです。海外に行くことができないうえ、県内でもイベントが少なくなっていた中で、このような交流を求める方たちが多くいたのではないかと思います。



ポジャギチュモニをつくる受講者たち



受講者が作ったポジャギチュモニ



韓国映画上映会&国際交流員によるトーク交流会の様子

## 今後に向けて

コロナ禍という今だからこそ、新たな講座の形、交流の形に挑戦することができました。一刻も早く新型コロナウイルス感染症が収束することを願っていますが、コロナによりもたらされる負の側面だけでなく、今だからこそできることに目を向け、今後も挑戦していきたいです。